

# 平成 21 年度岩手大学 UURR プロジェクト報告

## 1. UURR プロジェクトチーム

大野 眞男	プロジェクトリーダー 副学長・国際交流センター長
堀江 皓	顧問 工学部客員教授
藪 敏裕	教育学部教授
新妻 二男	教育学部教授
平原 英俊	工学部准教授
壽松木 章	農学部教授
小野寺 純治	地域連携推進センター教授
対馬 正秋	地域連携推進センター教授・技術移転マネージャー
早川 智津子	国際交流センター准教授
鈴木 一寿	研究交流部研究協力課副課長
上杉 明	研究交流部国際課副課長
崔 華月	研究交流部国際課外国語専門職員
石沢 友紀	研究交流部国際課主任

## 2. UURR プロジェクトの趣旨

成長著しい中国においては、産学連携が経済発展の一翼を担っている。他方、日本の産業界は市場の将来性を展望し、改めて中国への技術・資本の進出を開始しようとしている。

本学では、学長特命プロジェクトとして、平成 15 年度より、これまでの学術交流及び地域連携の成果を踏まえ、国際的な大学間ネットワークを活用した地域企業の国境を越えたビジネス・チャンスの場を造り出し、地域経済の発展に寄与するための事業 (University and University + Region and Region = 大学・大学と地域・地域の連携事業: UURR プロジェクト) を推進してきたところである。

## 3. 平成 21 年度における UURR 事業

### 3.1 大連理工大学との UURR 事業

#### (1) ジェトロ RIT 事業採択までの経緯

岩手大学は、大連理工大学との学術交流協定(平成 17 年 5 月 23 日締結)に基づき、平成 18 年 4 月に大連理工大学内に両大学共同出資の「大連理工大学・岩手大学国際連携・技術移転センター」(以下、「センター」と呼ぶ。)を開設した。

また、本事業推進のため、岩手大学内において、「岩手大学・大連理工大学国際連携・技術移転室」(以下、「技術移転室」と呼ぶ。)を設置し、センターの運営及び事業に係る事項について両

大学で協議のうえ、国際的な産学連携、学術交流、学生交流等の連携事業を推進している。

このような本学と大連理工大学との UURR 事業の取組みが評価され、平成 19 年 2 月に、日本貿易振興機構(ジェトロ)の Local to Local 産業交流事業(事前調査案件)(以下、「LL 事業」と呼ぶ。)に採択された。これを受け、同年 3 月には、本学関係者及び岩手 UURR ものづくり産業連携推進協議会<sup>(注)</sup>の企業関係者からなる訪問団を中国遼寧省大連市に派遣し、大連理工大学において開催された「大連理工大学・岩手大学国際科学技術協力交流会」に出席するなど、研究者交流及び両地域の企業間交流を行った。

以上のような平成 18 年度に行った LL 事業のもとでの活動および大連理工大学との UURR の取組みが評価され、平成 19 年度、20 年度、21 年度の 3 か年度にわたり、従来の LL 事業を発展させたジェトロの新たな「地域間交流支援 (Regional Industry Tie-Up Program: RIT) 事業」(以下、RIT 事業)に、「岩手地域 - 中国大連地域(ものづくり基盤技術)」案件(岩手大学と大連理工大学のコーディネートのもと県内企業の国境を超えたビジネス・チャンス創造を推進するプロジェクト。以下、「岩手 UURR プロジェクト」と呼ぶ。)が採択され、大連へのミッション派遣及び第 1 回、第 2 回「大連理工大学・岩手大学国際科学技術・産業交流会 (RIT 事業・UURR プロジェクト)」を開催するとともに、大連地域の有力企業の岩手招聘、本学研究者等による大連出張調査などを実施した。

RIT 事業最終年度である平成 21 年度については、とくに金型技術に絞って継続された。

本件採択により、本学と大連理工大学との UURR 事業はジェトロの支援も得て、より一層の展開が図ることができた。なかでも、平成 21 年度においては、大連と岩手との持続的な連携関係を構築するため、企業間連携に大学や地方政府を巻き込んだ取組を実施することができた。特に、日本の大学と中国企業との連携に加え、中国の大学と日本の企業との連携も視野に入ってきたことは画期的なことであったと考える。

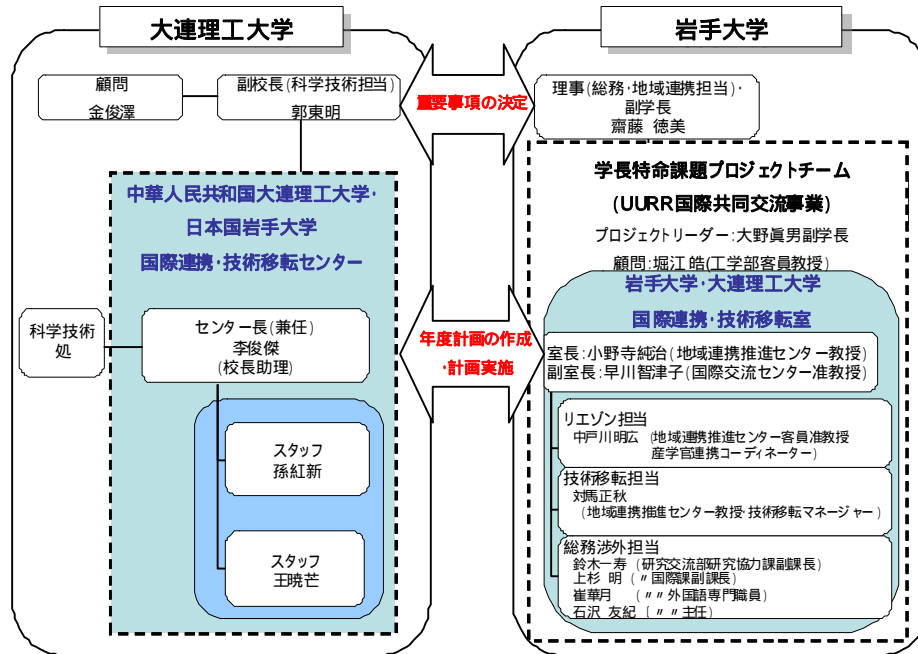
<sup>(注)</sup> 岩手 UURR ものづくり産業連携推進協議会：岩手 UURR プロジェクトを推進することを目的に、岩手大学のほか、現在、県内企業等 14 社、岩手県、岩手県工業技術センターが参加している。本学の大野真男副学長が会長を務め、技術移転室が事務局を担当している。

以下、平成 21 年度における大連理工大学との UURR 事業について述べる。なお、文中の < RIT 事業 > は、ジェトロ RIT 事業の支援を受けた UURR 事業を示している。



大連理工大学との UURR 事業のイメージ

大連理工大学・岩手大学国際連携・技術移転センター及び  
岩手大学・大連理工大学国際連携・技術移転室の組織体制



(2) 岩手大学の技術成果の中国企業への移転

本学と大連理工大学、(株)ゴーイング・ドットコム(本社東京、盛岡市産学官連携研究センターに同社岩手研究所を有する)、大連泰康科技有限公司(DAICOM)との間で締結された共同開発に関する協力契約(下記4, 4.1(1)参照)の基礎のうえに、大連理工大学ソフトウェア学院と(株)ゴーイング・ドットコムは2010年2月28日に双方の共同の実験室を設立するとともに、「XBRL および国際会計基準に基づくデータベースの研究」についての科学技術協力プロジェクトの協定を締結した。

(3) 両大学の教職員の交流及び共同研究の推進

5月大連ミッションのなかで、2009年5月21日、岩手大学の千葉則茂教授率いるITチーム一行7人で大連理工大学ソフトウェア学院を訪問し、学術交流を実施した。

2010年1月、工学部清水友治准教授が大連理工大学を訪問し、双方の学生交流、金型分野の共同研究およびプラットフォーム構築の件について検討を行った。<RIT事業>

2010年1月24日から28日までの間、大連理工大学金型研究所所長の王敏傑教授及び大連日進精密模塑有限公司の孫毅副総経理、大連開発区星海模具有限公司の夏士玉総経理を岩手に招聘した。一行は、滞在中岩手大学、岩手県庁・北上市を表敬し、岩手の金型企業を視察したほか、「RIT事業 岩手大連金型交流セミナー」に参加し、岩手の研究者及び企業代表と金型分野の交流について意見交換を行い、双方の協力可能性を検討した。本交

流の結果、大連理工大学金型研究所と岩手大学工学部との間で、共同の金型技術研究センターの設立、研究者の相互派遣による交流や客員教授就任の招請、金型分野での学生交流覚書締結等の事項について、協力していきたいとの意向を確認し、それらに向けて準備が開始された。< RIT 事業 >

#### (4) 中国政府への補助金申請の採択

2009 年 10 月、センターのプラットフォーム構築に関する中国国家外国専門家局および大連市外国専門家局への補助金申請につき、採択を受けた。

なお、両地域の政府間交流として、5月の大連ミッションにおいて、2009年5月21日、盛岡市守谷祐志市議ほか一行7人が大連市科学技術局を表敬するとともに、10月の大連金型ミッションにおいて、2009年10月14日、北上市伊藤彬市長率いる一行7人が大連市曲曉飛副市長を表敬した。

#### (5) 両大学の関連分野の研究者及び企業関係者による企業視察実施

5月の大連ミッションのなかで、2009年5月21日、本学堀江皓客員教授及び企業4社を含む鑄造チーム一行が大連四達鑄造有限公司に対し、視察および交流を行った。

10月の大連ミッションのなかで、2009年10月13日から16日までの間、岩手大学の教員・大学院生および北上市長、北上市の企業合わせて28名が、大連市技術開発区金型工業団地を視察、大連星海模具有限公司、パンチ工業など金型企業10社等を訪問したほか、大連理工大学において、「日中金型企業交流会 (RIT 事業・UURR プロジェクト)」を開催した。< RIT 事業 >



日中金型企業交流会 (RIT 事業・UURR プロジェクト)

上記(3) のとおり、2010年1月に、大連理工大学金型研究所所長王敏傑教授及び大連金型企業2社を招聘し、岩手県の金型企業等を視察した。< RIT 事業 >

#### (6) 両大学学生の留学交流実施

2008年11月に締結された岩手大学工学部と大連理工大学化工学院との学生交流に関する覚書に基づき、2009年4月、工学部熊谷教授・宇井准教授は大連理工大学化工学院の修士課程学生2名(高丹さん、任海娟さん)をリチウム電池の材料研究の特別聴講生として1年間受け入れた。なお、2010年3月帰国前に、両名に対し岩手県達増知事より「いわて親善大使」の委嘱状が授与された。

10月の大連ミッションのなかで、2009年10月14日、岩手大学鑄造専攻の教員・大学院

生 4 名および金型専攻の教員・大学院生 5 名がそれぞれ大連理工大学材料学院鑄造専攻および機械工程学院金型専攻と学生交流を行った。

なお、今後の学生交流について、2009 年 5 月 21 日、本学工学部長堺茂樹教授が率いる一行 3 名が、環境生命学院、材料学院、電子情報学院、ソフトウェア学院を訪問し、学生交流について協議を行った。併せて、化工学院を訪問し、同学院の学生の岩手での留学の状況について情報を共有し、さらなる双方の留学交流について意見交換を行った。

<参考>センターのアレンジにより、大連理工大学と韓国国立ハンバット大学校との交流が促され、双方の間で締結された学生交流協定に基づき、韓国国立ハンバット大学校から 2 名の学生が大連理工大学に留学している。

#### (7) チームを組織しての大規模な商談会参加

本学は、センターを活用し、大連理工大学と共同して中国等での展示・商談会に参加している。センタースタッフおよび岩手大学の教職員等が以下の商談会に参加し、岩手大学の技術の展示を行った。

##### 「2009 中国(温州)科学技術成果交易会」出展

2009 年 6 月 19 日および 20 日、センターは、チームを組んで浙江省温州市国際展覧会センターで行われた「2009 中国(温州)科学技術成果交易会」に参加した。同交易会には、科学技術成果の展示商談、温州イノベーションの発展と成果展、科学技術協力専門会場等が配置されており、センターは、温州企業の技術ニーズにターゲットを絞った展示を行い、会場に訪れた約 20 の企業と商談を行い、センターの技術成果の移転および PR 活動を行った。

##### 「2009 年中国国際工業博覧会」出展

2009 年 11 月 3 日、センターは、チームを組んで上海での「2009 年第 11 回中国国際工業博覧会」に参加した。会期中、センターは、両大学の連携について紹介するとともに、双方の先端技術の成果の展示を行った。

##### 「日中金型企業交流会(RIT 事業・UURR プロジェクト)」開催

上記 4. のとおり、2009 年 10 月 14 日、産学官の金型分野の連携と発展を促進するため、岩手大学・北上市が率いる金型企業ミッション一行 28 名が大連理工大学を訪問し、共同で「日中金型企業交流会(RIT 事業・UURR プロジェクト)」を開催した。< RIT 事業 >

##### 「イノベーション・ジャパン 2009」参加

2009 年 9 月 16 日から 18 日までの間、日本科学技術振興機構(JST)の招聘を受けて、センターはミッションを組んで、東京国際フォーラムで開催された「イノベーション・ジャパン 2009 - 大学見本市」に参加した。会期中、「大連理工大学と岩手大学との産学官連携の道のり - モデルとその成果」を宣伝したほか、本学藤井学長と大連理工大学李俊傑校長助理らの間で、10 月 13 日から 16 日の間、岩手から派遣する大連金型ミッションおよび大連理工大学で

開催する「日中金型企業交流会 (RIT 事業・UURR プロジェクト)」について協議を行った。

#### (8) その他

「日中大学フェア&フォーラム」への参加

2010年1月29日、30日に開催された「日中大学フェア&フォーラム」(主催:科学技術振興機構中国総合研究センターほか)に出展し、両大学の交流等についての紹介を行うとともに、小野寺純治教授が同フォーラムにおいて、地域に根ざした大学作りの一つとして UURR プロジェクトについても紹介した。なお、同イベントには、大連理工大学も出展しており、会期中姜徳学副学長と本学大野眞男副学長らとの間で両学の交流に関し意見交換を行った。

#### 4. UURR の将来展望

上述のとおり、平成 21 年度における UURR プロジェクトは中国の大学である大連理工大学との交流を中心に行われた。その間、他大学においても、本プロジェクトに対し関心が示されており、以下紹介する。

##### 4.1 韓国国立ハンバット大学校を交えた日中韓 3 大学の連携可能性の模索

###### (1) 「日中韓大学国際産学官連携セミナー」開催

5 月の大連ミッションにおいて、2009 年 5 月 21 日、本学と大連理工大学、韓国国立ハンバット大学校の学長出席のもと、3 大学間で共同して「日中韓大学国際産学官連携セミナー」を開催した。同セミナーの席上、大連理工大学と韓国国立ハンバット大学校との間で包括協力協定が締結されたほか、岩手大学、(株)ゴーイング・ドットコム、大連理工大学、大連泰康科技有限公司



日中韓大学国際産学官連携セミナー参加者

(DAICOM) の 4 者間で共同開発に関する協力契約を締結した。

また、訪問中に、大連理工大学の学生を対象に藤井学長の講演が行われた。

###### (2) 「2010 日中韓 3 大学国際産学官連携セミナー」についての事前協議

2010 年 3 月 4 日に、3 大学の間で、2010 年度に実施する「日中韓 3 大学国際産学官連携セミナー」について実務担当者間の事前協議を行い、会議日程や今後の 3 大学連携のあり方について討議を行った。

(早川智津子 国際交流センター)